

水稲「きらみずき」オーガニック栽培技術の 理解向上による安定生産

東近江農業普及指導センター

【普及活動のねらい・対象】

JA グリーン近江オーガニック研究会は 6 戸の生産者により、令和 5 年度からオーガニック「きらみずき」の栽培を開始し、有機 JAS 認証取得に向けて活動しています。令和 5 年産の収量は 166～505kg/10a（平均 331kg/10a）と生産者により大きなバラつきがありました。主な減収要因は、オーガニック栽培技術の理解不足により雑草防除が適切にできなかったことや、いもち病の拡大、倒伏を避けるため穂肥を減量したことによる登熟不良でした。

そこで、研究会が栽培するオーガニック「きらみずき」の安定生産を目指し、雑草防除と品種特性に応じたオーガニック栽培の支援に取り組みました。

【普及活動の内容】

オーガニック栽培の雑草防除技術の理解向上のため、JA と連携して研修会を開催するとともに、研究会員に対し個別に現地指導を行いました。現地指導では、複数回代かきや除草作業、水稲の生育に応じた深水管理などの雑草防除技術が適切に実践できるよう指導しました。あわせて、「きらみずき」の品種特性に応じた管理が出来るように、葉色や生育状況を対象と確認し、施肥の判断や、適期収穫を支援しました。



写真1 現地指導の様子

【普及活動の成果】

研究会での令和 6 年産オーガニック「きらみずき」は、適切な雑草防除や施肥管理により収量が向上した生産者がいた一方で、機械除草による欠株が多発し、雑草が繁茂したことから減収した生産者もあり、収量は 150～552kg/10a（平均 310kg/10a）となりました。令和 6 年産の減収要因を整理し、安定生産が実現できるよう引き続き支援します。



写真2 雑草を抑え適期
収穫している様子

◎対象者の意見

オーガニック栽培技術を理解・実践でき、昨年度よりも収量が向上した。次年度も安定した収量をとれるよう支援をお願いしたい。（生産者 T 氏）